

Bridolly

text and
paintings by
Kenji Shimizu

vol. 9 月刊ブリドリ



Moon and Autumn Grasses ミクストメディア 6F



第九回

志水堅二 しみずけんじ

1971年名古屋市生まれ。オリジナルキャラクター『ブリドリ』をモチーフに絵画、立体などを制作。東西のアートフェア、画廊、百貨店などで個展多数。

オフィシャルサイト

<http://www.kenji-shimizu.com>

原点 回 帰

最近、実物のモチーフをスケッチする機会が減った。

学生の頃は実物を見ないで本や写真資料を見て描いたりすると先生に怒られたものだ。

花を描けば「実物を見ましたか?」と聞かれ、山を描けば「見に行ったんですか?」と聞かれた。

見てませんと答えるのが嫌で植物園に行ったりしたもの。そんな訳でやむを得ず写真

資料を使うときは今でも後ろめたい。また困ったことにあの頃は図書館に入り浸り資料

探しをしたものだが、今は手軽なインターネット時代だ。つつい検索してしまう。

が、先日蓮を描こうとした時のこと。蓮の画像を検索したのだがどうもピンと来ない。

あきらめて上野の不忍池まで蓮を見に出かけることにした。

水面からすらりと伸びた蓮の葉は風を受けてゆらゆらと揺らいでいた。

僕は「揺れる」という当たり前の情報すら忘れていたことに気がつき危機感を感じた。

炎天下の中、じっくり観察をする。記憶よりも葉が大きく重そうだ。強い日差しに透ける

花びら、葉のこすれあう音、空気の香りなど、写真からは得られない膨大な情報量が伝

わってきた。

汗を拭きながらスケッチをしているとふと、子供の頃、写生大会で描いた水彩画を思い

出した。風に折れたぐしゃぐしゃの画用紙に、飛んできた砂がくっついたガサガサのそ

の絵には、何ともいえないリアリティーがあった。

降り注ぐ日差しの中、蓮池を眺めながら僕は初心に帰った。

Shimizu 